

特別企画展

花を愛でる 古きを尊ぶ

Admiration of Flowers and Reverence for Antiquity

重要文化財 蜀葵遊猫図(部分)
伝毛益筆 中国・南宋時代(12世紀)
大和文華館蔵

2026年

※一部展示替あり

7月16日(木) - 8月23日(日)

休館日: 月曜日(ただし 7月20日<祝>は開館し、翌21日<火>が休館)

開館時間: 午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

入館料: 一般 630円 / 高校・大学生 420円 / 小学・中学生 無料

※20名以上の団体は相当料金の2割引で引率者1名無料

※「障がい者手帳」をお持ちの方とご同伴者1名2割引

大和文華館

—— 奈良・学園前 ——

THE MUSEUM YAMATO BUNKAKAN | NARA・GAKUENMAE

花を愛でる 古きを尊ぶ

四季おりおりに咲く花々をはじめとする植物は、私たちの眼を楽しませ、心を和ませてくれます。中国では古くから、花木におめでたい意味(吉祥)や、理想の人間像を重ねつつ、人物や禽獣たちを伴わせ、瓶にかざり、野にある姿で表すなどして、多彩な絵画や工芸を生み出しました。それは広く東アジアにも伝わり、それぞれの国で豊かに発展しました。こうした花木を愛でる思いは、19~20世紀の中国で、古代の青銅器や石刻を研究する「金石学」とむすびつき、「花博古図」とよばれる特殊な絵画の流行をうながします。それは長い歴史の中で育まれた花卉図の構成や描法と、古の時代に関する研究の蓄積・憧憬が生み出した、まさに時代の華といえるでしょう。本展観では、中国、日本、朝鮮半島、琉球で制作された花木をモチーフとした作品とともに、東アジアの「博古趣味」をうかがわせる美術や書籍、そして「花博古図」の世界をご覧ください。

East Asian art often embodies not only sentiments regarding the present and future but also yearning for the past. This exhibition explores people's longing for antiquity, with a focus on works depicting flowers.

●特別講演 7月26日(日) 午後2時 講堂

「花博古：近代中国における古器と書画の鑑賞について」

京都大学人文科学研究所准教授 呉孟晋氏
[定員]当日先着100名(予約不要)

●日曜美術講座 8月2日(日) 午後2時 講堂

「東アジアの花卉図と古への想い」

当館学芸部係長 都甲さやか
[定員]当日先着100名(予約不要)

●講座 美術の窓 7月19日(日) 午後2時 講堂

連続講座「江戸後期の浮世絵」
第2回「歌川国貞…幕末浮世絵界の覇者」

当館館長 浅野秀剛
[定員]当日先着100名(予約不要)

●列品解説

毎週土曜日 午後2時 当館学芸部による

●無料招待デー/8月6日(木)・7日(金)

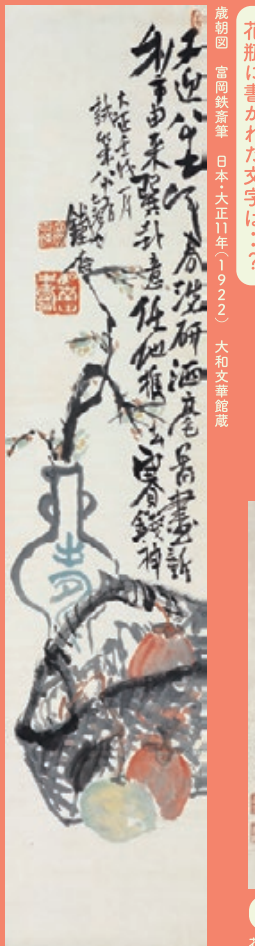


桐下遊英図 伝余松筆 中国・清時代(18世紀) 大和文華館蔵

実はおめでたい意味がたくさん！花木と生きものたちの饗宴。



よく見ると、花器は青銅器の拓本！格調高き「花博古図」。



歳朝図 宮岡鉄斎筆 日本大正11年(1922) 大和文華館蔵

新春を祝う美しい梅。

花瓶に書かれた文字は…?



可憐なサザンカ、堂々たる岩石。筆者の墨戯が光ります。

翰墨隨身帖(第9図・第10図) 田能村竹田筆 日本・江戸時代後期(19世紀) 大和文華館蔵

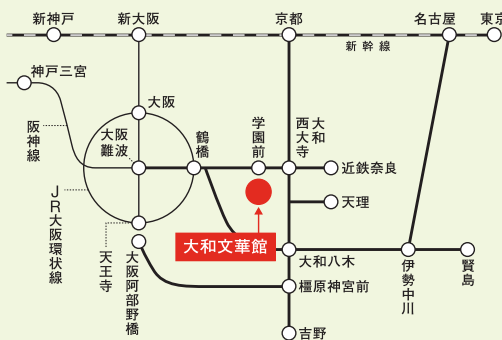


琉球の宮廷画家による、透明感あふれる花と鳥の楽園。

花鳥図 山口宗季(呉師虔)筆 琉球・第二尚氏時代 康熙54年(1715) 大和文華館蔵



近鉄・奈良線(学園前駅)下車、南出口より徒歩約7分、無料駐車場あり



大和文華館

奈良・学園前

〒631-0034 奈良市学園南1-11-6

TEL (0742) 45-0544 FAX (0742) 49-2929

近鉄・奈良線(学園前駅)下車 徒歩約7分

大和文華館ホームページ

<https://www.kintetsu-g-hd.co.jp/culture/yamato/>

@yamato_bunkakan

@yamato_bunkakan

